

**編集・声明:「ひとつの世界考古学」から「ひとつの世界、たくさんの考古学」へ**

Nick Shepherd

世界考古学会議の雑誌、Archaeologies 第1号へようこそ。すでにある雑誌に加えて新しい世界考古学会議の雑誌を出版することの意義には2つの側面がある。第1の側面は、東と西、南と北、先進諸国と発展途上国、支配的あるいはサバルタンの立場にある国家・集団、そして個人という多様な考古学者たちを結びつける議論や対話のためのフォーラムとしての役割を担っているということだ。第2の側面は、この多くの声(vocality)は、権力と威信の関係によって、資源へのアクセスの差異、そして、異なる記憶と歴史的経験によって構成されていることを明確に認識することにある。その第2の観点は、特に表象の政治学を超えて、新たな、潜在的により挑戦的(魅力的)な何かに向かって、われわれを動かしている。この新たな時に、われわれは新たなスローガンを提唱する。:「ひとつの世界考古学」ではなく、「ひとつの世界、たくさんの考古学」

**副編集長のコメント:前を見よう**

K..Anne Pyburn

副編集長の K..Anne Pyburn は Archaeologies 第1号について Nick Shepherd に喜びを表わし、彼女が編集する、第2号のテーマを「革命的活動として考古学を教えること」と発表する。

**縁辺部に居住、交点で活動? フェミニストと先住民の考古学 2005**

Margaret W. Conkey

この小論は、フェミニズム考古学と先住民考古学の間には存在する共通項についてである。このエッセイは、西洋の学問における分野間交流の歴史から、これら2つの異なる考古学の研究、その差異や共通する問題意識の考察へ進み、「分野間交流アプローチから得られるものは何か」を問う。フェミニスト研究者と先住民研究者の双方を統合する考古学的解釈の2つの特質は、1)「経験」の位置と役割、2)口頭伝承とストーリーテリングの利用である。考古学における非植民地化の方法論とカウンターリサーチのいくつかが提起されている。最後に、分野間交流と共同研究がとくに有効と思われる考古学の2つの側面について議論される。それは、性(ジェンダー)役割の理解と空間考古学である。双方の研究者が、考古学的実践の変化に向かって進むことを提唱することにより、このレビューは、変化する力をもつ一体化した意識の更なる発展を促進することを目的とする。

**考古学的民族学:クルーガー国立公園をめぐる会話**

Lynn Meskell

この小論では、考古学と社会・文化人類学の橋渡しをするものとして私が考古学的民族学と称しているハイブリッドな実践の可能性について概略を述べる。私のフィールドワークは、クルーガー国立公園の境界で、

Malatije コミュニティの人々、社会生態学者、国立公園で働く監視員(フィールドレンジャー)、通訳、ヘリテージの職員とともに行なっている。この調査は、南アフリカの考古遺産の求心性と、それがコスモポリタン、ポストコロニアル国家において新たな主観性を形成するのに果たす多様な役割に貢献し、それらを批判的に評価するものである。

### **「すべての煙と鏡」 世界考古学会議 1987 - 2004**

**Peter Stone**

この小論は、1986年の成功した第1回世界考古学会議のサウザンプトン大会から2004年までの世界考古学会議(WAC)の始まりと発展について述べる。第1回世界考古学会議で南アフリカ共和国とナミビア共和国からの参加者を締め出したこと、それによってWACはユネスコに加盟する国際先史・原始学会(International Union of Prehistoric and Protohistoric Sciences 略称 IUSPP)の11回会議としての役割を失ったことに触れる。両者の決裂のもとになった締め出し問題の前には、第1回考古学会議とIUSPPのまとめ役の間で、考古学者の役割と責任の理解に根本的な差異があったと指摘する。この小論は、WACはフルタイムの事務局を維持するための財政的援助が整うまで、その最大限の可能性を出し切ることが決してできなかったであろうと強調している。最後に、21世紀におけるWACの継続的な役割があるかどうかについて問い、WACがこれまで以上に必要とされるとする、2つの相互に関係する問題を示唆することで締めくくる。

### **かんぬきの両側の考古学**

**Aljandro F Haber**

アルゼンチンで経験されるようなアメリカ大陸へのコロンブス到着の記念祝典は、知識としての考古学を理解することの疑問を明確にするための焦点を提供した。先住民にとっては、自分たちの独立最後の日の記念日である。考古学者は、先住民の世界や物質文化について研究する時、自身がどのような立場にあるのか問うべきである。アルゼンチン考古学者の「パイオニア」の解釈について、考古学の目的の構築に横たわる「形而上学的隔たり」という概念に沿って議論される。その隔たりとは、土着の人々の世界のリアリティと科学的方法を通じた知識を主張する考古学者の間の距離である。21世紀において、いまだ考古学に対して提起する問題がある。非植民地化の実践にみられるように、考古学自体の非植民地化の過程を含まなければならない。ひとつの世界考古学はこの自治独立の課題を継続するためのコンテキストを与える。

### **ひとつの世界、ひとつの場所**

**Martin Hall**

アパルトヘイトの役割とケープタウンの位置づけは、世界考古学会議の発展と1986年以来のひとつの世界考古学の全体を理解するために用いられる要素である。WACの設立が正式に承認されたのは、南アフリカ共和国からの参加者を出席させないという学問的ボイコットが行なわれたサウザンプトン大会のときであった。「ひとつの世界、ひとつの場所」という言葉は、新たなアプローチの提案と、ひとつの世界考古学の位置づけを考え直す機会を示している。ひとつの世界、ひとつの場所というアプローチは、場所、問題に関わる地域、そしてアイデンティティ、文化的遺産、歴史的解釈と人間の権利の間にある関係に焦点を当てる。新たな情報コミュニケーション技術へのアクセスが普及することは、そのアプローチを促進し、場所の多様性を語る可能性を与

え、「活動する考古学」の戦略的なネットワークの発展を可能にする。

## 世界考古学会議: ビジョンの拡大

Claire Smith

この論文は、世界考古学会議の近年の歴史、到達点、将来の方向について概観するものである。世界の 14 地域から選出されたメンバーを含む WAC の組織構造の概要に続いて、WAC の出版計画と予定されている中間会議について述べ、世界中の人々の参加を呼びかける。著者は、遺跡保護の推進や考古学の倫理的実践について地域の考古学者をサポートするのに、WAC が一貫して主導的な役割を担ってきたことを指摘する。さらに、経済的、政治的状況が厳しい地域において考古学の共同体を育成することもサポートしてきた。

WAC の多意見主義に対するコミットメントは、WAC の会議に参加する人々の多様性に明確にあらわれている。たとえば、ワシントンで行われた WAC5 には、75ヶ国からの参加があった。これは、世界的多様性だけでなく、先住民の声のような各国の中の異質な集団の声を聞き、尊重する力という点で影響をもつ。WAC の多意見主義へのコミットメントは、WAC の政治的立場だけでなく、考古学的理論、方法、実践における WAC の姿勢にあらわされる WAC の社会的正義への献身によってより大きなものとなる。ともに働くことによって、WAC のメンバーはより豊かで、より洗練された、より学術的でより公平な考古学を達成しようとしている。さらに、WAC は他の分野の脱植民地主義のモデルとなるだろう。

現在の役員は、在職期間中に WAC をより一貫し、経済的に安定し、より政治的に実行力のあるものとし、世界中の考古学者を結びつけ、地域の共同体のためになるような実践的手段によってサポートすることを望んでいる。このような方法によって、WAC を立ち上げた人々の視野を広げたいのである。

## Journal of Environment and Culture

「環境と文化ジャーナル」(JEC)は、ナイジェリアのイバダンにあるイバダン大学考古学・人類学科の公式な出版物である。イバダン大学考古学・人類学科は、すでに広く読まれ、高い評価を得ている雑誌「西アフリカ考古学雑誌」を出版しており、さらに「環境と文化ジャーナル」が新しく加わったことになる。このジャーナルのテーマは世界各地の環境と文化に関する知識の獲得と、地域(ナイジェリア)および世界における政策の制定と実施に関する知識の出版である。

このジャーナルは、いま近代化によってつながっている人道主義の基礎を脅かしているもの、近い将来に個人の間、集団や国家の間に関係のあり方に深刻な影響を与える危険性に対応する必要性から誕生したものである。アフリカは、明らかにこの危険の最先端に位置づけられており、市民がいろいろな抵抗運動を組織しているナイジェリアはまさにその渦中に入ろうとしているかもしれない。

このジャーナルは、国際的な視野をもち、学際的性格と実践的な方向性をもつものである。その主たる機能は文化と環境の相互作用的性格について、またそうした相互作用が地域的に、またグローバルに構成される知的、経済的、政治的交換において、いかに人間性が公正に保たれるかについての議論の場を用意することである。自省的で、多分野主義的で、比較する視点をもつ本誌の方向性に従い、科学、宗教、歴史、社会学、哲学などあらゆる分野からの投稿を歓迎する。投稿は、文化と環境の問題について、個人あるいは共同で、文脈的あるいは通時的に取り組むものとする。

購読についての質問は、J.O.Aleru( [olualeru@yahoo.com](mailto:olualeru@yahoo.com)) に、また投稿についての質問は編集長( [Journal-Environmentculture@yahoo.co.uk](mailto:Journal-Environmentculture@yahoo.co.uk).) にお願ひします。

Arqueologia Suramericana

Arqueologia Sul-Americana

南アメリカは活発に考古学的知識を生産している地域であり、学問的およびぶん脈的視点から過去に対するオルタナティブなアプローチを生み出している。しかしながら、モノに基づく過去についての論文という文化的生産を南アメリカで普及させる印刷媒体はなかった。そこで、南アメリカの考古学者が協力し、世界考古学会議のサポートのもとで新しい雑誌「Arqueologia Suramericana/Arqueologia Sul-Americana」をカウカ大学(コロンビア)人類学科から出版することになった。世界考古学会議の目的に従い、この雑誌は南アメリカの考古学および関連分野の成果を促進・普及するにあたって、アカデミックな領域では従来軽視されてきた過去の表象に関する議論も包括する批判的視座を強調する。本誌は、南アメリカを大きく二分する世界でありながら、これまで長い間お互いを無視しあってきたブラジルとスペイン語圏諸国のあいだの理解、コミュニケーション、ディスカッションの橋渡しをすることを希望する。類似した問題と可能性を共有し、言語も類似している南アメリカが、このように分断されているのは悲しむべきことであり、この雑誌のような共同事業によって、お互いに対する意図的な無知を超えて問題に取り組むことができるだろう。

問い合わせは Cristobel Gneeco, [cgnecco@ucauca.edu.co](mailto:cgnecco@ucauca.edu.co), または Alejandro Haber, [afhaber@arnet.com.ar](mailto:afhaber@arnet.com.ar) まで。